

やらなきゃもったいない！

会社も従業員も成長できる

リスキリングとは

(Reskilling＝学び直し)

企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)が急速に進むなか、新たなスキルや知識を習得する「リスキリング」への注目が高まっています。歯止めのかからない少子高齢化による人材不足もふまえ、新しい時代に対応し、会社を成長させる方法として、リスキリングは重要なカギとなるでしょう。リスキリングを導入するメリットやポイント、注意点を説明します。



Q リスキリングってなにをするの？

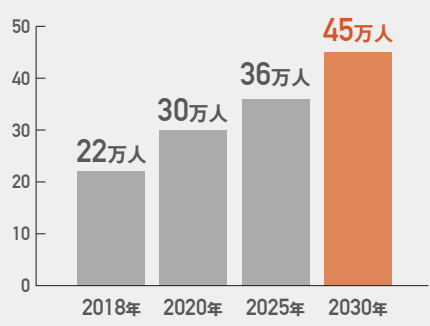
リスキリングとは、「(組織が従業員に)新しいスキルを再習得させる」こと。従業員視点で考えると、「新しいことを学び、新しいスキルを身につけて実践し、それを生かして新しい業務や職業に就く」ことです。「学び直し」と和訳されていることが多くありますが、その意味だけでは不十分で、これまでとは異なる業務に対応することが目的です。



Q リスキリングが注目されるのはどうして？

AIやロボティクスといった自動化技術の進展により、従来、人間が行ってきた仕事自動化されることで起きる「技術的失業」を防ぐ解決策として、海外で先行してリスキリングが注目されました。また、企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)を担う人材不足に取り組むために、現在はデジタル分野の新しいスキルを身につける手段として、リスキリングが重要になってきています。

■ IT人材の需要と供給の差 (不足人数)



IT人材について、需要の伸びを年平均2.7%程度、労働生産性が年0.7%上昇することを前提とし、その需給ギャップを試算

出典：「IT人材需給に関する調査」平成31年4月経済産業省より

中小企業だからこそ
取り組みたいリスキリング

急に「リスキリング」と言われても自社には関係ないと考えてしまいがちです。しかし、デジタル技術を導入して業務の生産性を上げ、サービスや製品を生み出すコストを削減していくためには、デジタル分野のリスキリングは中小企業にとって、とても重要です。また、競合他社がデジタル技術を駆使した低価格で便利なサービスや製品を投入してきたときに戦うためにも、リスキリングが必要になっていきます。

◎ 外部環境の変化にしっかりと対応

現在、特にリスキリングの対象となっている分野が、「デジタル分野」と「グリーン分野」です。デジタル分野のリスキリングについては日本でも広がりを見せています。一方、グリーン分野のリスキリングは、現在欧州を中心に、脱炭素化に向けた人材育成としてとても注目されています。新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、日本でもデジタル化が進みましたが、従業員が外部環境に対応し、成長していくために、リスキリングは不可欠といえるでしょう。

◎ リスキリングの機会を提供

リスキリングは個人が帰宅後や週末に自主的に取り組むリカレント教育とは異なり、会社の将来の新しい事業計画に基づいて、従業員の職業能力の再開発を行います。そのため、会社はリスキリングに取り組む時間や機会を、就業時間内に提供する義務があります。特に中小企業に向けて、国や各自自治体さまざまな支援制度を提供していますので、活用されるとよいでしょう。



「キャリア形成・

学び直し支援センター(仮称)を 全国に設置予定 中小企業・個人をサポート

DX(デジタルトランスフォーメーション)の加速化などにより、企業や労働者を取り巻く環境が急速に変化していることを背景に、厚生労働省は令和5年度、「キャリア形成・学び直し支援センター(仮称)」を全国に設置する予定です。各拠点に職業・教育訓練や、学び・学び直しに関する研修を受講したキャリアコンサルタントが常駐し、主に個人や中小企業の学び直しやキャリア形成を支援していきます。

リスキリングを 導入している会社が 増えている！

西川コミュニケーションズ株式会社

愛知県名古屋市に本社を持つ西川コミュニケーションズ(株)は明治39年に創業。電話帳の印刷業からデジタルマーケティングやAI導入支援を行う企業へと変貌を遂げた会社です。平成25年に本格的にリスキリングを開始し、社長自ら人工知能分野のG検定を受けて合格。現在では社員約400名のうち80名が同検定に合格し、AI分野の事業に役立っています。「学びをやめると収入が下がる」を合言葉に、業務時間の20%をリスキリングに充てています。

◎ **コスト削減**
外部から人材を採用するコストと比較して、社内の従業員へのリスキリングのコストは約17%で済むという説もあり、長期的に考えると大きなコスト節約になります。

◎ **業務の生産性向上**
全社でリスキリングに取り組むことにより、従業員一人ひとりがデジタルツールを駆使し、効率よく業務を進めることができるようになります。ファイル共有、稟議、会計、採用等、さまざまなオンラインサービスを活用し、リモートワークも導入しやすくなります。

◎ **イノベーションの創出**

◎ **従業員の自発性を尊重する**
従業員一人ひとりのキャリアプランや希望に沿った分野でリスキリングを行えるよう、会社は従業員と相談しながら進めていく必要があります。

◎ **会社や従業員にマッチしたコンテンツを選ぶ**

〈リスキリング導入のステップ〉

Step 1

リスキリングの目的、 習得が必要なスキルの確認

まず、自社の生存をかけた将来の事業戦略を立案することが、一番大切です。この立案に基づいた人事戦略を描き、その上で従業員の職業能力を再開発する必要があります。今後、各部署でどんなスキルが必要になるかを確認します。

Step 2

教育プログラムの決定

将来必要となるスキルが決まったら、「そのスキルをどうやって身につけるのが最適か」考えます。自習型のオンライン講座と集合形式での研修、業務での実践機会をバランス良く織り交ぜて、3か月単位で計画を修正しながら1年間運営してみましょう。

Step 3

習得したスキルの実践

step2と並行しながら、身につけていくスキルを実践する機会を創出します。社内で新しいスキルを実践する機会を、現在所属している部署の中で作るか、新しい部署(例:新規事業部、デジタル推進部等)に配置転換をして、実践するのが望ましいでしょう。



執筆／後藤 宗明(ごとう むねあき)

一般社団法人ジャパン・リスキリング・イニシアチブ代表理事
富士銀行(現みずほ銀行)入行。その後渡米、グローバル研修領域で起業。帰国後、米国の社会起業家支援NPOアショカの日本法人を設立。2021年一般社団法人ジャパン・リスキリング・イニシアチブを設立。

リスキリングに取り組むメリットは？

◎ **コスト削減**

外部から人材を採用するコストと比較して、社内の従業員へのリスキリングのコストは約17%で済むという説もあり、長期的に考えると大きなコスト節約になります。

◎ **業務の生産性向上**

全社でリスキリングに取り組むことにより、従業員一人ひとりがデジタルツールを駆使し、効率よく業務を進めることができるようになります。ファイル共有、稟議、会計、採用等、さまざまなオンラインサービスを活用し、リモートワークも導入しやすくなります。

◎ **イノベーションの創出**

いち早くデジタル化に取り組んだ欧米や中国では、さまざまな新しいサービスが生まれています。リスキリングによって最新のデジタル技術を習得することで、自社の強みを活かした新規事業創出などの可能性が広がります。

◎ **取り組みやすい環境を作る**

現在の業務量のまま、+αでリスキリングの時間を創出することは、従業員に過剰な負担を強いることになり、成果につながりません。業務分担のうえ、必ず就業時間内に行うことが大切です。

◎ **従業員の自発性を尊重する**

従業員一人ひとりのキャリアプランや希望に沿った分野でリスキリングを行えるよう、会社は従業員と相談しながら進めていく必要があります。

◎ **会社や従業員にマッチしたコンテンツを選ぶ**

業種や職種によって、身につけるべき新しいスキルは異なります。そのため、会社の将来の事業や部門の方向性と合わせて、学習項目を設定する必要があります。また、オンライン学習コースなどのほか、学習の継続を支援する仕組みも重要です。

リスキリングを始めるときのポイント